

震災から10年 市東日本大震災追悼式



東日本大震災の発生から10年を迎えた3月11日、スポーツアリーナそうま第二体育館で、犠牲者を悼む相馬市東日本大震災追悼式が開催されました。

市が主催し、遺族ら約200人が参列しました。

政府主催の追悼式がスクリーンで中継される中、震災の犠牲者を悼み黙とうをささげました。

式で、立谷市長は「震災の災禍と教訓、多くの命を守ってくれた英霊、お寄せいただいた心温まる支援を忘れることなく、後世に語り継いでいきます」と式辞を述べ、菊地清次市議会議長が追悼の辞を述べました。

遺族を代表し穴戸ひかりさんが震災からの10年間を回想し「これからも亡くなった方々や、あの日のことを忘れず、自分の生き方や仕事を通して、今まで受けた恩を返していきたいと思います」と犠牲になった御霊に語りかけました。



努力にエールを送る 市学力調査成績優秀者表彰式

学力調査成績優秀者表彰式は2月13日、市役所で行われ、市内中学生の各学年総合成績



10位までの生徒たちが出席しました。

市学力調査は、子どもたちの学力の実態を把握し、調査結果を個別指導に活用することで、子どもたちの学力向上を図ることを目的に、市教育委員会が市内全小・中学校で実施。

立谷市長は入賞者一人一人に表彰状やメダルなどを手渡したあと、「心から皆さんの努力にエールを送ります」と受賞者をたたえました。

子どもの意欲を引き出す指導方法を研究 市教育研究会

令和2年度相馬市教職員研究作品展表彰式は2月18日、総合福祉センター（はまなす館）で開催されました。

当研究作品展は、市内の幼稚園、小学校、中学校の教職員が子どもたちの生き抜く力を培う教育の充実・進展を図るため、日ごろから実践・研究してきた成果を作品として公開展示し、各校での教育活動の改善・充実につなげることを目的に、毎年度継続して開催されています。

出品作品は市内の小学校、中学校に巡回され、今後の教育の向上に活用されます。



子育て・教育環境充実 プロジェクトを支援 あぶくま信用金庫



2月22日、太田福裕あぶくま信用金庫理事長ら3人が市役所を訪れ、立谷市長へ寄付金を手渡しました。

今回の寄付は、同信用金庫の社会貢献活動の一環として、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を活用し、市と一般社団法人エル・システムジャパンが協働で事業を展開している子育て・教育環境充実プロジェクトに賛同して行うものです。

立谷市長は「本プロジェクトは子どもたちの将来に資するものと考えています。大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。

宇多川にサケの 稚魚を放流

山上小



サケ稚魚の放流会は、2月26日、宇多川河川敷で行われ、山上小学校の児童ら40人が参加しました。

宇多川鮭増殖組合主催のサケ稚魚の放流は毎年行われており、今回は子どもたちの川や海の水環境を大切にする気持ちを育むことなどを目的に同小の児童を対象として実施。当日は、バケツに移した3,000匹の稚魚が宇多川に放流され、参加した児童らは放流した稚魚が元気に川を下っていく姿を指さして喜び、その後の県職員の話でサケの生態への理解を深めました。

石油資源開発



2月25日、藤田昌宏石油資源開発株式会社代表取締役社長ら6人が市役所を訪れ、佐藤憲男副市長へ寄付金を手渡しました。

同社は、2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震により被害を受けた地域の一日も早い復旧を願い、寄付を行ったもの。

佐藤副市長は「石油資源開発株式会社相馬工場も今回の地震で被害を受けたこととあります。市の復旧事業などに有効に活用したいと思いを」と感謝の言葉を述べました。

福島県沖地震への支援

IHI

3月5日、識名朝春株式会社IHI代表取締役副社長ら5人が市役所を訪れ、立谷市長に寄付金を手渡しました。

同社は、2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震により被災した地域の一日も早い復旧を願い、寄付を行ったもの。

立谷市長は「株式会社IHI Iも地震で被災されている中、支援いただきありがとうございます。市の復旧事業などに有効に活用します」と感謝の言葉を述べました。



オリエンタル モーター



3月9日、西島隆一オリエンタルモーター株式会社常務執行役員や木村明宏相馬事業所所長ら3人が市役所を訪れ、佐藤憲男副市長へ寄付金を手渡しました。

同社は、2月13日に発生した福島県沖を震源とする地震により被害を受けた地域の一日も早い復旧を願い、寄付を行ったもの。

佐藤副市長は「本市への支援ありがとうございます。市の復旧事業などに有効に活用したいと思いを」と感謝の言葉を述べました。

一冊の会

特定非営利活動法人一冊の会による寄付は3月11日、市役所で行われ、大槻明子同会長、小山志賀子同会副会長の2人が訪れました。

同会は、図書贈呈などによる識字率向上のための社会教育活動などを行っている団体で、震災以降継続して本市への支援を行っています。

大槻会長は会員から寄せられた募金を、福島県沖を震源とする地震への寄付金として立谷市長に手渡しました。

立谷市長は「寄付ありがとうございます。大切に使用させていただきます」と感謝の言葉を述べました。



新たな旅立ち 市内の中学校で卒業式

3月12日、市内4つの中学校で一斉に卒業式が行われ、319人が卒業証書を手に学び舎を巣立ちました。

中村第一中学校では145人が卒業。

和田安吉中村第一中学校長は卒業生一人一人に卒業証書を手渡し「卒業生の皆さんに、疾風勁草（しつぷうけいそう）という言葉を贈ります。強い風の中でも折れない勁草のように、これからの人生、どんな局面でも正しく、たくましく生き抜いてください」

と卒業生にはなむけの言葉を贈りました。

卒業生を代表し、佐藤晃太さんが「コロナ禍という逆境の中、自分たちにできることを考えて取り組んできた経験は、きつとこれからの人生に生かせるものだと思います。これまで支えてくれた全ての人に感謝し、中村一中の誇りを胸に力強く生きていきます」と新たな旅立ちへの抱負を述べました。

式の後、卒業生は保護者らが見送る中、希望を胸に母校

を後にしました。



被災地を歩いて絆をつなぐ 心の復興コミュニティ相馬



東北復興支援絆ウォークおよび心の復興コミュニティ相馬は3月14日、スポーツアリーナそうま第二体育館で開催され、市民ら約200人が参加しました。

東北復興支援と心の復興を目的に、東北復興支援運動体実行委員会の主催。

出発式で立谷市長が県ウォーキング協会にシンボルフラッグを手渡した後、参加者たちはスポーツアリーナそうまを出発し、特別ゲストとともに相馬中村神社などを含む市内約5キロメートルのコースを元気に歩きました。

また、第二体育館ではコミュニティイベントとして、輪くぐりやジャンプなどで忍者気分を味わいながら体を動かすレクリエーションや認知症予防運動などの運動プログラムが催され、参加者たちはさわやかな汗を流していました。

十割そばに挑戦 磯部公民館

磯部公民館特別企画講座そば打ち教室は2月24日、同館調理実習室で開かれ、3人のそば打ち経験者が参加しました。

当日は、市内各公民館でそば打ち講座を受け持つ木村貞夫さんを講師に迎え、本格的なそば打ちに挑戦。

参加者は、講師から湿度やそば粉の種類による打ち方の

違いなどの指導を受けながら、そば粉100パーセントの十割そばを完成させました。



新型コロナワクチン接種 シミュレーション実施

スポーツアリーナそうま第二体育館で行われ、市内医療従事者や市職員ら約160人が参加しました。

シミュレーションでは、予診票の確認や血圧測定、医師の問診後のワクチン接種、経過観察までの流れを確認。

立谷市長は「人員配置に改善の余地があるが、一定の成果を上げることができた。これから今日の演習で気付いた反省点などを改善していく」と講評を述べました。



新型コロナワクチン接種のシミュレーションは3月6日、